

令和6年度茅ヶ崎市環境審議会 第1回温暖化対策分科会（WEB会議）会議要旨

日 時： 令和6年9月18日（水）10時から12時05分まで
場 所： 茅ヶ崎市役所 本庁舎5階 研修室（市役所での参加、傍聴場所）
出席委員： 大河内委員、高祖委員
（WEB会議により出席）山田分科会長、塩原委員、松枝委員、山本委員
出席職員： 【環境政策課】柳下課長、森課長補佐、松本課長補佐、眞井主査、今井主任

1 茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和6年度版）の評価

及び茅ヶ崎市環境基本計画の施策評価について

施策評価の進め方について確認を行った。また、「資料 事前評価シート（温暖化対策分科会）」を参考に、温暖化対策分科会が所掌する施策のうち、政策目標5（施策⑳～㉑）について評価を行った。

→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【施策評価の進め方について】

- 第1回の審議会で、施策16の指標である「廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出量の市民1人1日当たりの排出量」は、生活環境分科会が所管する政策目標3の施策に左右されるものであり、関係性があるとの意見があった。そのため、本分科会での評価は、政策目標5の施策21から始めることとし、施策16の評価は、生活環境分科会で政策目標3の施策についての評価を終え、その内容を参考として共有するタイミング、すなわち2回目以降の分科会で審議をお願いしたいと考えている。
- 施策評価は、指標として掲げられている数値やアンケート結果の3年間の推移に基づいて、施策指標として掲げられた目標の進捗状況はどうだったのかを評価していただきたい。
- 今回、施策評価を初めて行うことになるが、事業評価とは異なり、施策指標の数値目標に対して評価を行い、かつ3年間の進捗を評価し政策目標を達成できるかどうかを評価しないとイケない。施策評価にあたり、不足しているデータは自ら収集し、市が提供しているデータが正しいかも含めて委員自身が確認を行いながら評価すべきである。
- 施策評価にあたり、施策と政策の関係にずれがあるというところがあったり、政策遂行のために必要な施策の表現になっていない部分があった。特に、施策⑯から㉑については、そのずれが多く見受けられた。
- 施策評価は、市が提供した資料やデータの中で行うが、そのデータだけでは評価できないものは、「どのような資料がどのように不足しているのか」「市が資料提供すべきか」を分科会の意見として審議会へ戻し、市へ提案していく。

【施策⑳ 学校における環境教育の充実】

【事業評価】

- 出前事業について、実施件数も中間目標に達し、多岐にわたる分野で庁内連携を図りながら実施した点は評価できる。
- ちがさきエコスクールやスクールエコアクションについて、各校の取り組みや環境活動を教員や学校関係者で共有できた点、学校現場との連携が継続的に行われた点は評価できる。
- 繰り返し指摘していることになるが、意識行動や行動変容の検証として、学校現場の負担にならないよう配慮しながら、選択式の簡易的なアンケート実施や感想文提出を行い、それらを庁内で共有し、今後の事業や施策に反映させる必要がある。

【施策評価】

- 施策指標①と②は、計画策定時からの進展も認められ、関係各課との連携により環境への関

心が図られた点は評価できる。

- 施策評価にあたり、出前事業に関しては、上限回数や下限回数があるか分からない。実施回数のみでの評価は難しいため、「職員のどれくらいの労力がかかっているのか」「どういった内容の講座だったのか」など、実施内容の吟味検討も必要である。政策目標の遂行に対する施策指標の弱さがある点を指摘する。

【施策② 地域における環境学習機会の拡充】

【事業評価】

- 環境講座、農業体験、自然観察会への参加を実施している割合(市民)は、関係課と連携を図り実施されたことや参加状況について、良好と見受けられる。
- 環境学習の手段の検討に着手し、それを実施している点は評価できる。
- 地域清掃・ボランティア清掃参加人数については、単年度の評価としては前年度と比較し増加している点を評価できる。
- 繰り返しの指摘になるが、環境に関する講座や見学会、市ホームページに掲載している情報について、誰でも簡単に質問できる手段・対応法を AI による回答も含めて検討すべきである。
- 新型コロナ禍を経て、学習手段のあり方など変化していることが多くある。実施内容の評価が正当にできるよう、施策指標の精査が必要である。

【施策評価】

- 新型コロナを経て、参加状況に増加傾向が見える点は評価できる。
- 公表の仕方や広報の仕方に改善余地があるため、コロナ前の数字に戻らなくても良いという評価には至らなかった。政策目標達成に向けて更なる努力が必要である。

【施策③ 市内の環境意識の向上】

【事業評価】

- C-EMS の運用について、外部監査機関による良好事例を職員内で共有し、職員の環境意識やモチベーションの向上につながれたことは評価できる。
- 電気自動車を導入したことや再エネ電力への切り替えをさらに5施設行ったことは評価できる。
- C-EMS で目標設定しているエネルギー消費量の数字について、環境基本計画の目標より低く設定されている点は修正すべきである。環境基本計画との関係性を吟味し、C-EMS の内容を精査すべきである。

【施策評価】

- 公共施設におけるエネルギー消費量は、増加傾向にある。エネルギー消費量の見える化と振り返りを行う必要がある。
- 環境対策についての職員の行動変容は、温暖化やエネルギーの分野だけでなく多様な自然や生活環境にもつながることが本来の意識向上の結果ではないか。

【施策④ 環境に配慮した活動への支援】

【事業評価】

- 環境活動に対して、広報活動や講師派遣など、様々な支援を行っていることは評価できる。
- 事業者向けの環境に関する情報をちがさきエコネットで配信したことは評価できる。
- 優良な省エネルギーの取り組みを行った事業者に感謝状を贈呈し、ちがさきエコネットで紹介したことは、環境活動のアピールにも繋がるため評価できる。
- 市民や事業者に向けて、さらなる啓発活動の推進が必要である。
- 市の広報による積極的な活動紹介が肝要である。
- 支援すべき団体の見逃しがないか精査すべきである。

【施策評価】

- 環境活動について市ホームページやちがさきエコネットで継続的に情報発信が行われていることについて評価できる。
- 活動の参加者が増えるよう、主催者の意図も汲みながら経験やノウハウを駆使し、市が主催者に広報のアドバイスをを行うことも必要である。

○数・質・実施の事実といった指標によって、多面的なデータに基づき施策評価を行いたい。

【施策⑳ 環境に関する情報の発信】

【事業評価】

- 多様な広報媒体を活用し情報発信を行ったことは評価できる。
- 環境フェアなどのイベントや出前授業を利用した情報発信を行ったことは評価できる。
- ちがさきエコネットについて、アクセス数と更新回数は、期末目標をほぼ達成していることから評価できる。

■施策指標②「イベント・講座等に関する情報発信回数」の令和5年度の実績値について、年次報告書では205回となっており、施策評価シートでは202回となっているが205回が正しいため施策評価シートの訂正をお願いする。

○国や県と連携し、未解決課題の相談とそれらをしっかり市民に伝えることは、広報のあり方として大変重要である。

○新型コロナ以降のイベントのあり方や情報発信については、工夫する余地がある。参加者人数をコロナ前に戻すためにも、アンケート結果の分析等を踏まえた情報発信が必要である。

【施策評価】

○施策評価を施策指標に沿って評価すると、ちがさきエコネットは情報収集媒体としてのアンケート結果が非常に悪く、予算がかかっている以上見直しも視野にいれなければならない。ちがさきエコネットをどうPRしていくのか、リニューアル後もコンテンツをチェックしながら発信していく必要がある。

○アンケート結果は、年齢でクロスをかけているのか。

■クロス集計はしていない。

○情報がセグメント化し、情報ツールと発信内容について市も検討はしていると推測できるが、そういった資料も公開されていないと施策評価をするうえでは難しい。

2 その他

事務局より第2回温暖化対策分科会の案内を行った。

日 時 令和6年9月26日（木）13時から

場 所 茅ヶ崎市役所本庁舎4階 会議室3

■配布資料

資料 事前評価シート（温暖化対策分科会）

別紙 事前評価シート（温暖化対策分科会）補足資料